

色鉛筆

色鉛筆のルーツ

おなじみだけでなく、意外と知られていない色鉛筆。今回は色鉛筆について考えてみます。

黒鉛の粉と粘土を混合して焼成した芯を、軸木に挟んで固定したものが鉛筆です。色鉛筆はこの黒鉛の代わりにさまざまな有色顔料を用いたもので、色鉛筆の一種ではあるものの、そのルーツをたどるとパステルにまで遡れます。

パステルと色鉛筆の違いは、大きく2つあります。定着力と表現力です。パステルは粉末の顔料を最小限の水性糊材で固めているため、フィキサチフを用いなければ画面に定着しません。色鉛筆は顔料をワックスや油脂などで練り乾燥させたものなので、塗ればそのまま画面に定着します。その意味で、オイルパステルやクレヨンに近い製品といえます。

パステルはベタ塗りが容易にできますが、色鉛筆ではうまくいきません。その代わり、線描で構成される緻密な画面を描くのに適しています。着色部分の断面積の相違が、表現力の差になって現れてくるからです。でも、ホルバインの色鉛筆は芯を柔らかくしているので、面塗りや厚塗りといった従来の色鉛筆が苦手であった表現も可能にしてくれます。

文具メーカーと絵具メーカー

同じ色鉛筆でも、文具メーカーのものと絵具メーカーのものでは、多少異なることがあります。

前者は強く擦りつけて塗らないと、なかなか色がつきません。線を描くには適していますが、面を塗ったり、塗り重ねたりするにはちょっと不向きです。それに対して、後者は色の伸びや付きが良く、塗り重ねや濃淡の表現が容易にできます。文具メーカーは筆記具として鉛筆の延長線上で色鉛筆を設計し、絵具メーカーは絵具とし

て色鉛筆をつくっているからです。アーティストに使うてほしいのは、もちろん絵具メーカーのつくった色鉛筆です。ホルバインでは、油絵具に使われるものと基本的に同じ顔料で色鉛筆をつくっています。

さまざまなぼかし表現
ユニークな絵具としての可能性

最近、水になじむ性質を持たせた水性色鉛筆が発売されています。塗った後、水を含ませた筆でなぞれば、水彩画のようなぼかしができる便利な製品です。しかし、色数の豊富さや伸びの良さ、厚塗りのしやすさなどから言っても、色鉛筆の王様は油性（ワックスタイプ）です。

油性の色鉛筆も油絵用のテレピンやペトロロールを使えばぼかしができますが、それだと油分が紙にしみこんで裏うつりします。そこで開発されたのが、水性のぼかし液「メルツ」です。これを使えば、裏うつりすることなく水彩画風のぼかしができます。

「メルツ」を使わず、描いた後ティッシュペーパーで擦ったり、消しゴムで消したりなど工夫を凝らせば、いろんなトーンをもつぼかしが可能です。芯をナイフで削ってつくった粉末を、紙や布で丸く円を描くように擦りつけると、境界線のないほんのりしたぼかしが表現できます。また、ソフトホワイト（柔らかい白色）やメタリック色など、個性的な色が揃っているのもホルバインの色鉛筆の特色です。鉛筆としてではなく、パステルをルーツにした絵具として色鉛筆を使ってみると、思いがけない新しい表現、ユニークな表情が生まれてくるかもしれません。



色鉛筆ぼかし液
メルツ (35ml)



ホルバイン（アーティスト）色鉛筆
150色（全色）セット

ホルバイン絵具に関する
ご質問・ご相談は…

ホルバイン絵具 技術サービスセンター TEL.072 (985) 1223
〒579-8063 東大阪市横小路町4-10-52
電話受付時間/9:00~16:00 月~金曜日(祝日を除く)

holbein

ホルバイン絵具